

広島県鉄構工業会

「強い信念持ち頑張る」

新年互礼会に60人出席

【広島】広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳・セントス社長）は22日、広島市内で研修会と新年互礼会を開催、組合各社や来賓の行政関係者など約60人が出席した。

冒頭、山本理事長は「鉄骨ファブを取り巻く環境は良いが、技術革新や構造変化があったわけではない。鉄骨の加工能力が減る中、需要が増えたことで需給バランスが崩れているのが原因であり、こ

広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳・セントス社長）は22日に開いた新年互礼会で、藍綬褒章を受けた坂元亨・坂元鉄工会長（2016年度秋の褒章）と中尾健三・中尾鉄工所相談役（17年度秋の褒章）の2氏の功績をたたえた。同章は公益に尽くした人物に贈られるもので、両氏とも長年にわたり保護司として活動してきたことが評価された。

▽…保護司は、犯罪や非行をした人と定期的に面接し、更生のための指導、生活上の助言や就労の手助けなどを行うほか、少年院や刑務所から釈放された後の生活環境の調整、犯罪予防活動を担

の状況が永続することはない。過去には好況に浮かれ、手痛いしっぺ返しを受けた経験もある。良い時代だからこそ先輩方から話を聞き、昔を振り返り、将来を見据えてほしい。ファブの地位は少しずつ上がってきている。

宮崎・県建築技術部長



坂元・中尾 2 氏 保護司の功績を表彰



左から坂元氏、山本理事長、中尾氏

う。坂元会長は24年、中尾相談役は26年、それぞれ活動を続けてきた。両氏は保護司としての経験やエピソードを紹介。保護司として若者を支援することが社会貢献につながることや、鉄骨業界が雇用を受け皿となれることなどを訴えた。

▽…山本理事長は昨年9月に広島少年院からの依頼で、少年たちに職業講話やエピソードを紹介。保護司として若者を支援することが社会貢献につながることや、鉄骨業界が雇用を受け皿となれることなどを訴えた。

われわれが作る鉄骨は日本全国で、ビルになり、工場になり、学校になる。鉄骨ファブがなければ鉄を使った建築物は作れない。そういう強い信念を持って、ともに頑張っている」と訴えた。

宮崎・県建築技術部長は、広島県土木建築局建築技術部長が来賓を代表しあいさつに立ち、「県有施設の耐震化への取り組みでは、2011年から県立学校施設の耐震化を加速させ15年度末までに耐震化率1

00%を達成することができた。短期間で工事完了に対し、組合員の皆さまのご協力をいただき、感謝申し上げます。県では引き続き、警察署や庁舎などの公共施設の耐震化を図り、防災拠点としての機能確保を推進し、安心な暮らしづくりに努めていく。皆さまの変わらぬご支援をお願いしたい」と述べた。

互礼会に先立ち開かれた研修会では、住友三井オートサービスとアマダマシンの2社が講演。住友三井オートサービスはオートリースの有効活用で、車両管理に伴う経費や事務作業の削減できることを紹介。アマダマシンのツールは日本建築学会が15日付で建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事と関連指針を改定したことで、切断・切削加工にレーザーが使えるようになったことに触れ、レーザー加工機導入のメリットをPRした。